

令和6年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立雪谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・トライアングルやタンバリン、カスタネットなどの楽器に触れる機会を多く設定した。「タン」「ウン」など、リズムよく演奏することを目指したり、音そのものを楽しんだりするようになった。また、手打ちをすることで、音符と音の長さとの関係が身に付いていた。
- ・児童がより音楽に親しめるよう、様々な曲に触れる機会を設けたり、体を使ったりする活動を取り入れた。また、同じ曲でも様々な難易度の楽譜の中から選べるようにした。その結果、児童が楽しみながら前向きに活動するようになった。
- ・音楽会という演奏を発表する機会を設けたことで、目的意識を持って取り組み、達成感を得られるようになった。
- ・児童が表現の工夫をしやすいよう、発達段階に応じた手立てを講じることによって、多くの児童が最後までやりきることができた。
- ・基礎的な技能の向上のため、回数を増やし何度も練習を重ねることで歌唱や器楽の技能の定着が図れた。
- ・演奏を録音して聴く活動を取り入れたことで、自分たちの演奏の良さや改善点を客観的に理解し、より良い演奏に向けて練習をすることができた。
- ・お互いに教え合う活動を行い、コミュニケーション力の向上や、演奏を苦手とする児童の楽器演奏の習得に向上が見られた。
- ・鍵盤ハーモニカの練習では、同じ曲の演奏方法を数パターン用意し、児童が難易度を選べるようにした。そのため、苦手な児童も取り組みやすく、得意な児童はより高度な演奏方法を選択し、意欲をもって取り組むことができた。
- ・楽曲や演奏の楽しさを味わいながら聴いたり、体を動かしたり、口ずさんだりできる児童が多かった。
- ・音楽会という機会を設けることで、音楽に親しむとともに、上級生の演奏を聴くことで、児童が希望や目標をもつことができ、主体的に演奏したり、表現したりすることができた。

(2) 課題

- ・鑑賞では、言葉や文で表現する場合、表現する力の個人差が大きかった。
- ・音楽会があったため、意欲や技能の能力の向上につながったが、思考や表現といった面では課題が見られる。
- ・技能の習得に努力を要する児童への個別の指導を行っているが、演奏できた喜びや音楽を奏でることの楽しさを味わうためにはさらなる工夫が必要である。
- ・話し合いの活動は、お互いの考えが深まるために、話し合いの際の手立てに工夫を凝らすことが必要である。

2 授業改善のポイント（観点別）

（1）低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・楽譜通り歌えるようにするために、範唱や範奏を聴かせたり、階名唱や暗譜の活動を取り入れたりする。 (指導計画) ・鍵盤ハーモニカの準備の仕方と適切な奏法が身に付くようにするため、順序立てて活動する。 (授業構成)	・曲の様子に合わせて楽しく体を動かして、曲に合った表現ができるようにする。 (授業構成)	・楽しく取り組めるように、体を使ったリズム遊びを取り入れる。 (授業計画) ・より音楽に親しめるよう、季節の歌やいろいろな曲を聴いたり、歌ったりする機会を設ける。 (授業構成)

（2）中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・自分たちの歌や演奏を録音して聴く場面を作り、改善点に気付けるようにする。 (授業構成) ・演奏に努力を要する児童には個に応じた指導をする場を設ける。 (授業形態)	・音楽を聴いて感じ取った要素やイメージなどを交流する場を設け、様々な考えを知ることを知る。 (授業構成) ・教師が演奏を聴き価値付けるだけでなく、互いに演奏を聞き合い演奏を評価する場を設ける。 (授業形態)	・器楽学習をスモールステップで行い、達成感を味わえるようにする。 (授業構成) ・発表会などのみんなの前で演奏する機会を設け、感想を交流しながら互いの良さを認め合えるようにする。 (授業形態)

（3）高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・演奏に努力を要する児童には、個に応じた指導の場を設ける。 (授業形態) ・録音した自分たちの演奏を聴いて比較する活動を通して、よい点や改善点を見つけ、さらに伸ばしていけるようにする。 (授業構成)	・ICTを活用してスムーズに全体の意見を共有できるようにする。 (授業形態) ・聴いた音楽を価値付けたり、知覚したことと感受したことを結び付けたり、言葉や文字で表現したりする活動を日常化し、苦手意識をもたないようにする。 (授業計画)	・どの児童も意欲的に学習に参加できるよう、個人、ペア、グループなど内容に応じた活動にする。 (授業形態)

3 今年度授業改善プラン成果と課題

(1) 成果

- ・トライアングルやタンバリン、カスタネットなどの楽器に触れる機会を多く設定した。「タン」「ウン」など、リズムよく演奏することを目指したり、音そのものを楽しんだりするようになった。
- ・演奏を録音して聴く活動を取り入れたことで、自分たちの演奏の良さや改善点を客観的に理解し、より良い演奏に向けて練習をすることができた。
- ・少人数で教え合う活動を行い、コミュニケーション力の向上や、演奏を苦手とする児童の楽器演奏の習得に向上が見られた。
- ・鍵盤ハーモニカやリコーダーの学習では、同じ曲の演奏方法を数パターン用意し、児童が難易度を選べるようにした。そのため、苦手な児童も取り組みやすく、得意な児童はより高度な演奏方法を選択し、意欲をもって取り組むことができた。
- ・楽曲や演奏の楽しさを味わいながら聴いたり、体を動かしたり、口ずさんだりできる児童が多かった。
- ・言葉で表現する活動を多く設けたことで、聴いた音楽を言葉で表現したり、評価したりすることがスムーズに行える児童の増加が見られた。

(2) 課題

- ・音楽会や連合音楽会といった大きな発表の機会がなかったため、誰かに聞いてもらうという経験が少なかった。いざ、みんなの前で演奏するといった時に、児童の気持ちを作る手立てが必要である。
- ・技能の習得に努力を要する児童への個別の指導を行っているが、より達成感を高められるよう、さらなる工夫が必要である。
- ・話し合いの活動は、お互いの考えが深まるために話し合いの際の手立てに工夫を凝らすことが必要である。